

NEWS GOPE

インターネット・ニュースの見方

eye 1

米国のインターネットビジネスは インタラクティブ マーケティングの時代へ

WWW(ウェブ)を第一走者とするインターネットは近代100年の情報化の歩みをここ2~3年の間に大急ぎで追体験している。なかでも米国では、インターネットがあらゆるメディアを押し退け、先頭に踊り出た。ビジネスもインターネットのしくみを取り込んで未知の領域に踏み込もうとしている。(本誌シニアコラムニスト・今泉 洋)



個人の嗜好をインプットするとそのデータに応じた商品をアウトプットしてくれるFirefly
URL <http://www.ffly.com/>

研究・教育機関など、組織間の利用を中心として始まったインターネットは、ウェブの登場をきっかけに一般にも急速に普及したが、そのきっかけとなったのは大学生などを中心とした趣味のホームページの急増だろう。さらに、そこから派生したWeb-Zine(ウェブ上の雑誌)や企業のパブリシティー用ウェブサイトが相次いで登場し、これに並行するかたちで新たな情報ビジネスを模索する既存情報企業の実験的なアプローチが続く。

ここ2~3年の間に起こったこれらの動きは、おなじみの「情報爆発」という言葉でくくってしまうことができる。そして「情報

選択(が不可避)の時代」がやってきたのである。爆発的に増加し続ける情報の中からユーザーがそれぞれ必要なものを選択する。そこで大きな役割を果たしたのが、インターネットそのものが備えるインタラクティブィティ(双方向性)、特にウェブページに埋め込まれたハイパーリンクだった。この機能のおかげで、楽しみながら次から次へと情報をブラウズすることができる。従来のメディアではまったく考えられなかったユーザーの積極的な情報選択行為は「ネットサーフィン」という流行語にまでなった。そしてこの時点で、我々はこれまで体験したことのない、メディアとのまったく新しい関係に入ったのである。

広告はブロードキャストから オン・デマンド型へ

こうしたユーザーの情報選択に対する関心の高まりに着目して、「オン・デマンド(on demand)」をキーワードにマルチメディアを再度訴求しようという動きも出てきた。「オン・デマンド」とは「利用者のその時々々の要求に沿った情報を届ける」という意味だ。VOD(Video On Demand)に代表される、コンテンツそのものを楽しむ「エンターテインメント・オン・デマンド」につ

いて言えば、多くの場合、低速回線に依存している現在のインターネットがCATVなどと競争できる可能性は極めて低い。

しかし、コンテンツを何らかの行動のためのポインターとする、「インフォメーション・オン・デマンド」については、インターネットの高いインタラクティブ性が本領を發揮する領域と考えられる。そして、この機能を直接的にビジネスに利用しようというのが「アドバタイジング・オン・デマンド」というアプローチである。

消費者は納得できる金の使い方を求めている。しかし、彼らの納得する理由はそれぞれ異なる。そこで、ウェブをデータベースのフロントエンドとして利用し、彼らに納得して商品・サービス購入の意思決定をしてもらえるよう、彼らの望む情報を提供しようというものだ。この種のサービスは、日本でもリクルートが『ふぉれんと』や『カーセンサー』の情報をウェブ上で提供するという形で実現している。

企業側からすれば、従来はマスに向けてブロードキャストしていた「広告」情報を、個々の利用者が開示する複数の条件に従って個別に提供するわけだが、もちろん、この一方で、ユーザーの開示した関心情報を集積してマーケティングデータとしたり、この先に電子商取引などの機能を充実させ、商品購入など実際のトランザクションにつなげていこうと目論んでいるのは言うまでもない。

氾濫する情報の中で いかにニーズを絞り込むか

実は、利用者側から見たこの「オン・デマンド」というしくみは、逆に企業側から見ると、消費者との間にインターネットを介在させた「インタラクティブ・マーケティング」というアプローチになる。

先頃、IBMが小売業者向けの電子商取引システムとして「Interactive Marketing

System」を発表したが、基本的にこの方法は、従来のマスマーケティングに代表される一方的なアプローチが引き起こす情報の氾濫にピリオドを打ち、文字どおり消費者との双方向のコミュニケーション関係の中でマーケティングを進めようとするものだ。本来、消費者にとって消費とは供給者との関係の中で成り立つ、楽しく知的なエンターテインメントであるはずだ。しかし、消費についての賢さを求められる一方、あまりに多くの選択肢を一方的に与えられれば、消費者が意思決定不能に陥ってしまうのも事実だ。テレビやラジオ、パンフレットやカタログといった伝統的な一方通行のメディアとは違い、インターネットはインタラクティブなマーケティング・コミュニケーションの場となりえる。

供給者サイドがそれぞれの顧客ニーズに絞り込んだアプローチを手にする一方で、顧客は溢れる情報をより個人のニーズに合わせて構築し直して入手することができる。その結果、消費のための意思決定が効率的に行える。インタラクティブ・マーケティングはそうした仕組みとして期待されているのである。

個人の関心に応じて情報を 再構築するサービスが登場

米国では、さまざまな企業がウェブの仕組みに注目し、新たな消費者との関係づくりに動いている。このベースには先に述べたように、インターネットというインタラクティブな情報空間によって、人間のメディアとの関わり方が大きく変わってしまったという認識がある。

「Yahoo」をはじめとする検索サービスや索引サービス、ウェブガイド、カテゴリ別のWeb-Zineなど、ウェブ上に分散的に蓄積された莫大な情報をユーザーが簡単に利用できる仕組みが数多く開発され、広く利

用されている。企業側も、これらウェブ上のリソース・ガイド類への広告掲載といったかたちで、ウェブというメディアのインタラクティブな機能の価値を積極的に評価し、支援している。また、両者の仲介を果たすウェブトラック(<http://www.webtrack.com/>)やスポンサーネット(<http://www.sponser.net/>)というようなビジネスも生まれてきた。

さらに、ウェブ上のリソースを組み合わせて自分だけの紙面を作れるパーソナル電子新聞サービス、「Firefly」や「InfoSeek Personal」などの利用者プロフィール登録によるデータサービスといった、ユーザー個人の関心に応じて情報を再構築してくれる新しいサービスも注目を集めている。

インターネットをビジネス上で利用しようとするれば、こうしたサービスへの関心の高まりが何を意味しているのかを見抜き、その仕組みをうまく取り込んでいく必要がある。

日本の企業に求められる コミュニケーション能力

インターネットのビジネス利用において、今企業に求められているのはコミュニケーション能力であり、それは消費者とのコミュニケーションプロセスの中に互恵的なビジネス構造を仕組んでいくことだと言ってもよい。残念ながら日本の企業は、広報部門があってもコミュニケーション部門がないことに見られるように、コミュニケーションに対する認識が低い。話題になるのはオンラインショッピングといった直接的なもののばかりで、ウェブへの関心も広報あるいは広告という、従来の一方的な情報伝達機能にしか向けられていないように思われる。米国で起こりつつある動きを見る限り、こうした旧来のブロードキャスト的なパラダイムから抜け出すことができなければ、日本のインターネットビジネス利用に未来はないと思われる。



WWW、メール配信、パーソナライズ... 続々登場する電子ニュースの新形態

ここ最近、新聞社や放送局など大手メディアの電子新聞事業が相次いで開始され、WWWや専用ソフトなど多様なアプリケーションが使われている。5月14日にジャストシステムと毎日新聞社が共同で発表した電子新聞事業は、WWWと電子メールを使うほか、全国紙で初めてパーソナライズを可能にした。これら電子ニュースサービスの動向をまとめた。

(フリーライター・野辺名豊)

今回ジャストシステムと毎日新聞社から発表された電子新聞の名称は『JustNetパーソナライズドサービス・毎日デイリークリック』(愛称「JustNet P'z News」)。月額970円で、7月から本格的なサービスを開始する。

インターネットを通じて配信される内容は、7月の開始当初は「スターター・サービス・セット」として政治、経済、スポーツ、ニュース速報など9つのジャンルで、情報の更新は朝夕の1日2回。今年後半には、ジャストシステムが開発した同義語・上位語による検索が可能なりアルタイム検索サービスや、オプションとなる電子メールによる配信サービスが行われる。コンテンツに関

しても、基本の9ジャンルに加え、マルチメディアや企業リリースなどのビジネスマン向けの情報や、競馬・宝くじといった娯楽情報などが加わる予定だ。これは新聞紙面にはないオリジナルコンテンツとなる。当面は決済の都合上、ジャストシステムが運営するプロバイダーJustNetの会員のみがサービスを受けられる形だが、画面そのものはNetscapeのブラウザに対応している。

全国紙で初めての パーソナライズドサービス

この『JustNet P'z News』の最大のセールスポイントは、大手メディアの電子新聞

事業としては日本で初めてパーソナライズするサービスを採用したことにある。これは、ユーザーが数多い新聞記事の中から好みのジャンルに合った記事を選択して見ることができるというもの。パーソナライズ設定画面に経済やスポーツなど自分が見たいジャンルの優先順位やキーワードを設定しておけば、不要な情報は切り捨てられ、記事の見出しがその優先順位に沿った構成で並べられる。また、各記事の項目には、毎日新聞側でその記事の重要度によって「重み」情報が付加され、それによってブラウザ画面に表示される見出しに大小のメリハリがつき、ユーザーからも重要なニュースがわかるようになっている(図1)。

携帯端末への配信型と インターネット活用型

毎日新聞社は今回のジャストシステムとのサービスのほかにも、端末にシャープのザウルスを用いた『毎日ザウルス電子新聞』の配信サービスを今年の3月1日より電話回線を通じて行っている。今回はそれに次ぐビジネス展開ということになるが、片やインターネットのWWWサービスを用い、片や電話回線による携帯端末への配信と、アプリケーションは異なる。

実際、新聞社や放送局など他のメディア各社も今年になって続々と電子新聞サービスの概要を発表しているが、興味深いのは、「電子新聞」という枠組みの中でもインターネットのWWWを利用したもの、電子メールで配信するもの、放送の電波を利用した携帯端末のものなど、各社各様にアプリケーションが異なる点である。

たとえば、フジテレビや産経新聞などサンケイグループと三菱電機などによって設立

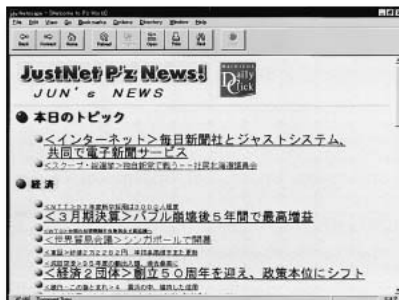


図1 毎日新聞の記事をパーソナライズし、WWWブラウザで読むJustNet P's News!

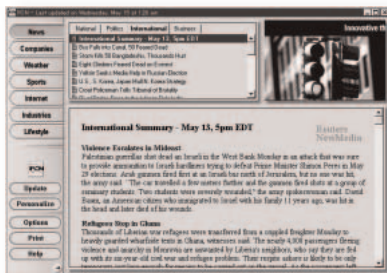


図2 スクリーンセーバーに自動的にニュースが流れ、それをクリックすると、この専用のニュース表示ソフトが現れる

された携帯電子新聞が行っている『E-NEWS』は、アプリケーションとしては三菱電機の開発した携帯端末を用いたものだ。これはフジテレビの持つ地上波放送の電波の空き帯域を用いて行う「放送」であり、普通の家庭用アンテナで受信ができる。アンテナで受信したデータを専用受信機で受け、その中にセットされた携帯端末に情報を記憶させる。加入手数料が5000円、携帯端末および受信セットの価格が39,800円、受信料が月1350円となっており、コンテンツは産経新聞の記事と同様のものだ。こうした携帯端末を用いた電子新聞は、前記の『ザウルス毎日新聞』を含めて、とうぜん通勤途中などどこでも気軽に見られる点が売りものということになる。

これに対して、最近のインターネットユーザーの増加を意識してか、インターネットを使った電子新聞サービスがここに来てよく話題になっている。もちろん、アプリケーションとしてはWWWや電子メールを利用したものが主流だ。

まず、WWWを利用した電子新聞サービスとしては、『JustNet P'z News』のほかに東芝とアメリカのインディビジュアル社とが技術提携して共同出資によって設立された携帯ニュースウォッチのサービスがあげられる。コンテンツの内容、サービス価格など詳細については未定だ。ただ、このサービスも『JustNet P'z News』と同様に、ユーザー1人1人の好みに応じた情報を、数多い記事の中から検索・選択して配信する点がセールスポイントとなっている。日本語は同義語や類似語が多い。それだけに、ブラウザ上でのキーワードによる検索機能で

は、今後の電子新聞に限らずワープロの技術が重要なウェイトを占めていくようになるかもしれない。

新聞を「配達」する 電子メールサービス

今後電子新聞サービスのアプリケーションとして、WWWと並ぶ柱になると思われるのが電子メールを使った情報の配給である。『JustNet P'z News』も、今年の第三四半期から電子メール配給を行う予定だが、このほかにも電子メールを使ったサービスとしてはインプレスの『インターネットウォッチ』がある。月額500円でインターネットで日々起こっている最新情報が毎日配信されてくる。これは一般の新聞と違ってコンテンツが独自性を持っていることが特徴ともいえる。

ポイントキャストなど 専用ソフトの開発も進む

その他、インターネット上で展開される電子新聞サービスのなかでもユニークなアプリケーションに、専用のソフトウェアを用いたものがある。ポイントキャスト社のニュース・オン・デマンド・サービスであるPointCastNetworkはその代表例だろう(図2)。スクリーンセーバーにニュース画面を表示する点がユニークで、データが自動的に更新されるのでユーザー側にしても使い勝手がよい。また、インプレスの「インターネット・テレテキスト」も文字放送という点でユニークだ(図3)。情報はテキスト情

報だけだが、その代わり常に最新の情報が流れるメリットがある。

専用のソフトウェアという点では、日本経済新聞社がNTTのマルチメディア通信実験にリンクする形で事業化実験を行っている「NIKKEI HYPER PRESS」も専用のブラウザを用いる。豊富な情報量と、テレビ東京のニュース動画をを用いたメディア・リッチな画面で操作性は優れているが、基本的にLANなど専用回線でない、動作スピードが遅く、NTTのインフラ整備に歩調を合わせることになる。

情報の独自性も問われる インターネットの新聞

電子新聞事業の中には、メディアとしての目新しさばかりが先行し、コンテンツ自体は従来の新聞記事をそのまま転載したケースも目立った。

しかし、最近になってようやく電子新聞に新しいメディアとしての方向が出てきた感がある。その1つはユーザーの好みに応じてコンテンツのチョイスができるパーソナル化であり、もう1つは情報の独自性であろう。「JustNet P'z News」などにおけるパーソナル化は必然的な流れで、インターネットにますます多量の情報が溢れていくに従って、有用な情報を選ぶ作業が要る。

また、独自性という点においては、たとえば毎日新聞社や日本経済新聞社のサービスの場合、新聞紙面ではレイアウトの関係で字数に制限があるなどして、記者の書いた記事が編集されてしまうが、電子新聞のテキストデータは字数制限がなく、記者の書いた記事をそのまま見られるように、同じ記事にもその違いが見られる。今後、「JustNet P'z News」や「インターネットウォッチ」のように、「そこでしかわからない」コンテンツが、とりわけインターネット上には増えていくことだろう。

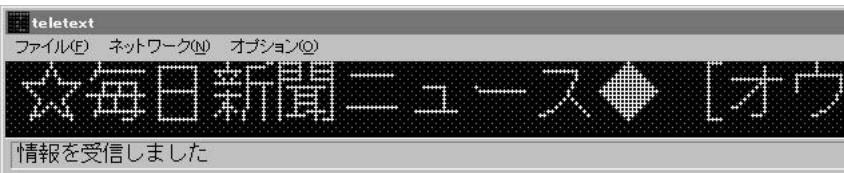


図3 文字放送のような一行ニュースを流し続けるインターネット・テレテキストの毎日新聞サービス

Provider ついにアメリカオンラインが日本進出
AOL ジャパン、年内にもサービス開始

世界最大のオンラインサービス「アメリカオンライン」が、いよいよ今年、日本に進出することになった。

5日8日、三井物産と日本経済新聞社、アメリカオンライン(AOL)の3社が合併事業契約を結び、「エーオーエル・ジャパン(AOL ジャパン、AOL-J)」を設立すると発表した。資本金は30億1000万円を予定しており、AOLが50%、三井物産が40%、日本経済新聞社が10%の株を保有する。社長は現在選定している。

アメリカオンラインは米国で550万人の会員数をもつパソコン通信サービス。Windows用とMacintosh用の使いやすいGUI通信ソフト、いろいろなメディアとタイアップして提供するコンテンツ、接続料金の安さなどで急成長した。1年ほど前に

はAOL インターナショナルを設立し、すでにヨーロッパでもサービスを開始している。

また、インターネットのWWWへの乗り入れはアイコンのクリックだけで簡単にでき、インターネットを利用するための世界最大のプロバイダーでもある。

このように米国でパソコン通信やインターネットの利用者の裾野を大幅に広げた実績をもつAOLの進出は、日本のパソコン通信業界に大きな影響を与えると予測されるが、日本でのサービスの詳細はまだ明らかになっていない。

AOLの技術をベースに日本語版の専用ソフトを

開発し、米国版と同様に、動画や音声を使えるようにする。そしてコンテンツの提供は日本経済新聞社が手がけるほか、これから広く募集していく。アクセスポイントは、まず28.8Kbpsを全国展開し、追ってISDNなどにも対応する意向。

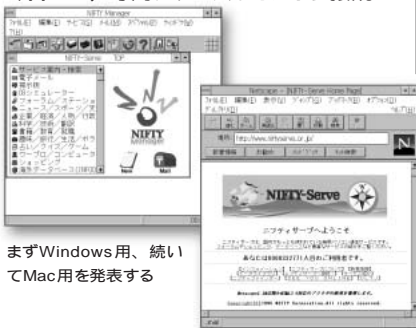
URL <http://www.aol.com/>



米国版AOLはアイコン操作でメニューを選ぶ。ニュースやエンターテインメントなど14のジャンルがあり、音声や動画・文字情報、インターネットのホームページへのリンクポイントなどが入っている。

Provider ニフティがインターネットサービス強化
専用通信ソフトでWWWが利用可能に

ニフティは富士通と協力して、ニフティサーバに接続したままWWWを利用できるサービスを5月30日から開始する。ニフティサーバからダウンロードできる専用GUI通信ソフト「ニフティマネジャー」と、WWWブラウザとしてネットスケープ社のNetscape Navigator Ver2.0がマイクロソフト社のInternet Explorer Ver2.0を組み合わせて、専用アクセスポイントに接続し



まずWindows用、続いてMac用を発表する

て利用する。同社では今年1月からPPP接続サービスを開始しているが、これまではニフティサーバをいったん終了させてからでないとWWWを利用できなかった。今回バージョンアップしたニフティマネジャーを使うことにより、ニフティサーバ接続中のどの時点からでもWWWブラウザを起動させてインターネットに入り、再びニフティサーバに戻ることが可能になる。また、ホームページを参照しながらニフティサーバのデータをダウンロードすることもできる。専用アクセスポイントは、まず東京や大阪など7か所に設置し、9月までには40か所、来年3月までには全国100か所に拡充する予定。

問い合わせ ニフティ(株)メンバーサービス部
TEL03-5471-5806

Provider パソコン通信の
アスキーネットも
PPP接続スタート

(株)アスキーが運営するパソコン通信サービス「アスキーネット」が5月15日よりダイヤルアップIP接続をスタートした。会員は、パソコン通信と同じ料金(月額2,000円+5時間超過分は3分20円)でダイヤルアップIP接続が利用できるようになった。サービスの開始に伴い、全国25か所に28.8Kbpsのアクセスポイントを新設したほか、1か月単位でアメリカのアクセスポイントを利用できるサービスを開始。このサービスではascinet.comというドメインのメールアドレスをもつことができる。この場合、利用料金はアスキーネットの規定料金のほかに月額1,000円(固定)が必要になる。ただし、パソコン通信は利用できない。

問い合わせ アスキーネット事務局
TEL03-5352-1600

Provider 山梨県内の団体 プロバイダーや大学が 相互接続で合意

山梨県内でインターネット接続サービスをしている11社と4団体が、それぞれのネットワークを相互接続することで基本合意した。合意したのは、日本電気、富士通、山梨インターネット、マウント富士インターネットなど山梨県内にアクセスポイントやNOCを持つプロバイダーと、山梨大学や甲府商工会議所などの団体。接続は県内に相互接続機構を設置して、専用線で同機構につなぐことになるようだ。具体的な日程はまだ決まっていない。

隣接した地域で相互接続を行えばインターネット全体のトラフィックを軽減することになる。今回の相互接続は山梨県が主導する形で進められている。プロバイダーが急激に増加している状況での新しい動きとして注目される。

Technology マルチメディア作品の 著作権保護技術を NEC北米研究所が開発

NEC北米研究所は、インターネットで配信される画像や音楽、ビデオ映像などのマルチメディア作品著作権を保護する技術の開発に成功した。

新技術は、さまざまな作品データの最も重要な部分を周波数領域に変換し、目に見えないコードを「透かし模様」として作品に挿入するもので、この模様はいったん挿入されると永久に作品に埋め込まれ、コピー不可能なので、著作権所有者のIDを証明することになる。

また、この透かし模様はノイズパターンのように微小であるため、作品の質を損ねることなく挿入できるほか、デジタル・アナログ変換や拡大や縮小をしても有効になっている。

Report 公共部門のための インターネット活用ガイド 大阪府がまとめる

大阪府は、府や市町村、各種公共団体がインターネットを活用していく際の手引きとして『公共部門におけるインターネットの活用をめざして - 公共部門インターネット活用ガイド』をとりまとめた。インターネットを活用していくうえでの各種の社会的・技術的課題について、民間企業も含めた学識者の提言や、府庁内の活用ニーズを踏まえた調査・検討の結果をまとめたもの。内容は分野ごとの活用メニュー案、社会・技術・運用面での課題などから構成され、メニュー案では、バーチャル美術館や、街角ウォッチング、公共施設予約情報システムなど16項目を提示している。

問い合わせ 大阪府企画調整部情報政策課ネットワーク推進班 TEL06-941-0351 (内線2363または2364)
電子メール sh00824@niftyserve.or.jp

Service ビーブルと三菱商事 パラグラフ社と提携して 「People Space」を発表

ビーブル・ワールドと三菱商事は5月10日、昨年11月発表以来計画していた3次元グラフィックの通信サービス「People Space」に、米パラグラフ・インターナショナル社の3次元グラフィック技術の採用を決定した。「People Space」では当初は米ワールズ社の技術を用いる予定だったが、パラグラフ社の技術の先進性を評価して変更したという。これに伴い、当初は96年4月から予定していたサービスを、96年秋に延期することにした。新しい「People Space」では、「HomeSpace」と名づけた3Dグラフィック画面の中に他の画面へのリンクが張れる。開発環境もビーブルから提供される。

問い合わせ (株)ビーブル・ワールド
ビーブル事務局 TEL0120-860-864
URL <http://www.people.or.jp/pspace/ps.html>

Commerce Net.Commerceなど 電子商取引の新製品を 米国IBMが発表

米国IBM社は、5月1日、エレクトロニックコマースの製品と技術を紹介し、企業がオンライン販売を行うための環境を提供していく方針を発表した。主力製品の「Net.Commerceシステム」は、すでにアトランタオリンピックのチケット販売サーバーで稼働しているもの。商品を陳列したカタログや安全なクレジットカード決済システムによってインターネットで即時売買ができる。また、多数の買物客の受け入れはもちろん顧客個別の対応もできるインタラクティブマーケティングを可能にする。アウトドア用品の通信販売で有名なL.L.BeanもNetCommerceを採用すると発表している。

URL <http://www.ibm.co.jp/>
URL <http://net.commerce.ibm.com/>

Commerce セキュリティー技術の RSA Data Securityが 2億ドルで買収される

「RSA暗号方式」や「公開鍵暗号」などを提供するセキュリティー技術のリーディングカンパニーRSA Data Security社が、セキュリティー機器の専門会社Security Dynamics Technologies社に買収されたと4月15日にアナウンスされた。買収金額は2億ドル。Security Dynamics Technologiesは、ファイアーウォール用のソフトウェアとハードウェアがセットになった「SecureID」というベストセラー製品をもつ上場企業。今後RSA Data SecurityはSecurity Dynamics社の子会社として、これまでと変わらずRSAのライセンス販売の事業を行っていくという。(232ページに関連記事掲載)

URL <http://www.securid.com/>
URL <http://www.rsa.com/>

Service

国内航空会社初 JALがホームページで 国内線予約開始

日本航空(JAL)は、国内航空会社では初めて、インターネットによる国内線予約サービスを開始する。7月1日から、JALおよび日本トランスオーシャン航空(JTA)の国内線の座席について、2か月前の13時30分から7日前までの間に普通席とスーパーシートが予約できる。一度の作業で予約できるのは最大4名まで。さらに、今回新サービスとして、JALおよびJTAの2か月前から出発当日までの空席案内、JAL便の当日の路線ごとの発着案内、JAL・JAA(日本アジア航空)の空席ごとの発着案内の3つが加わる。JALのホームページは昨年6月に開設され、現在1日2万件以上のアクセスがあるという。

URL <http://www.jal.co.jp/>

Service

6月1日から7日まで ラジオジャパンの インターネット週間

NHKの音声国際放送「ラジオ日本」は、6月1日の国際放送記念日から7日までを「ラジオ・ジャパン・インターネット週間」とし、ラジオ日本のホームページでさまざまなサービスの実験を行う。リアルオーディオを使った実験では、4分間の英語ニュースを1日3回更新して流すほか、在日外国人の目から見た日本をつづる人気番組「ジャパングアイリー」を日替わりで聞けるようにする。このほか、その日の主要なニュースの要約を英語で掲載したり、22言語のグループに分かれたスタッフ提供のページを開設し、その人気投票を行う。また、5月31日には、ラジオ日本に関連番組を放送する。

URL <http://www.nhk.or.jp/rjnet/>
電子メール info@int1.nhk.or.jp

Service

Newsweek日本版の ホームページ登場 購読申し込みも受け付け

『ニューズウィーク日本版』のホームページが登場した。毎号の主要記事を抜粋して発売日の(毎週水曜日)の前日夕方から紹介する。メニューは特集、インターネット関連のトピックスを集めた「CYBER SCOPE」、95年分のバックナンバー紹介、予約購読の申し込みなどがある。

URL <http://www.netcity.or.jp/Newsweek>



米国のインターネット事情の記事も多いNewsweek

Service

ストリームワークスの音楽専門放送局 ステーションガイアが開局

㈱ガイア・コーポレーションは、6月1日からインターネット上だけの放送局「ステーション・ガイア」を開局する。インターネットの放送用ソフト「ストリームワークス」を使って、24時間動画付きの音楽番組を提供する国内初めてのサービス。

スタジオは東京・新宿のタワーレコード内にかまえ、日本時間の午前10時から午後10時までの12時間は生放送を実施する。番組データは東京のスタジオからいったん米国のサーバーに送って流すもので、生放送時間以外はオンデマンド方式で24時間再放送を見ることができる。また、生放送中に視聴者が電子メールで参加したり、視聴者がインターネット上で番組を制作するシステムを提供したりするなど、視聴者参加型の楽しい企画を展開していく。

インターネットで音楽を配信するのにネットとなる著作権については、Station GAIA inc.が米国の音楽著作権協会団体であるASCAPとBMIの2団体と正式契約を結んで解決している。ただし、放送する曲は当面洋楽のみになる。

URL <http://www.stgaia.com/>



ステーション・ガイアをプロデュースしたハッスル持田氏

Service

EPIC・ソニーレコードの U.K.ロック専門情報 「flying」6月から

EPIC・ソニーレコードが提供するU.K.ロック専門のホームページ「flying」が6月9日からスタートする。U.K.ロックシーンの最新情報、アーティストへのインタビューや、アーティストのホームページへのリンクなどが掲載される予定。また、インターネットでのライブ中継なども企画されている。

URL <http://www1.sony.co.jp/InfoPlaza/SME/Music/International/flying/>(予定)



更新は2週間に1回

Service

個別ニーズに対応する 米国発情報通信ニュース 『GyroScoop』6月創刊

アメリカの最新メディアとインフォメーションテクノロジー(IT) それに関連したビジネス・マーケティング・政策などの情報をインターネットで提供する『GyroScoop(ジャイロスクープ)』が6月半ばに創刊される。凸版印刷と同社が出資しているiMMERS社が米国のビジネスワイヤー社と提携して日本語の記事を掲載する。更新は、米国時間で月曜から土曜日まで随時行われる。また、利用者個別のニーズに対応するために、あらかじめ設定しておいた知りたい分野の情報を自動的に選り出してくれる「パーソナル・エンジン」システムを採用する。利用料金は無料。

URL <http://www.gyroscoop.com/>

Service

NTT ビジュアル通信が 宿泊施設情報の 検索と予約サービス

NTT ビジュアル通信は、日本全国の宿泊施設情報をインターネットで提供するサービスを開始した。ホテルや旅館、民宿など宿泊施設別に検索できるほか、地域や料金、施設名、利用目的などからも検索できる。情報内容は施設名、住所、交通手段、料金、食事、観光情報などで、情報を提供する施設件数は当初1300件、1年後には3000件以上とする計画。また、ビジネスホテルとシティホテルに関しては情報提供だけでなく、会員制により予約も可能。情報検索は無料だが、予約は1回当たり200円の利用料が必要となる。

NTT ビジュアル通信(株)ゲートウェイサービス
推進部 TEL03-3589-1855
URL <http://www.ntt-v.or.jp/>

Service

インターネット版の ビジネス情報データベース メイド・ジャパンが開始

メイド・ジャパンは、ビジネス情報データベース「プロファウンド」のインターネット版を開始した。プロファウンドは英国メイド社が提供するオンラインデータベースサービスで、ビジネスに関する文字情報が豊富なほか、イラストやグラフィックが検索データとして入手できるのが特徴。95年7月から日本でもサービスを開始しているが、今回のインターネット版では従来に比べ大幅なコストダウンを実現している。現在は英語のみだが、今秋までには日本語による情報も一部提供開始する予定。年間契約料金は10,000米ドルで、情報1件ごとに課金される従量制。

問い合わせ (株)メイド・ジャパン
東京本社 TEL03-3585-9885

Publishing

電子出版ソフトのエキスパンドブックが インターネットとの連携を強化

ボイジャーは、WWWとの連携を強化した電子出版オーサリングソフト「エキスパンドブックWindows」を6月7日から発売する。エキスパンドブックは文章の割り付けや動画、グラフィック、音声などの貼り込み、ハイパーリンクの設定などが簡単にできるソフト。これを使った電子出版はこれまでCD-ROM タイトルが中心だったが、新製品の発売によりWWWを利用した出版も可能となる。

Net/エキスパンドブック機能をサポートしており、制作者側の意図に応じた文字の表示やレイアウトができるようにしている。一般にWWWブラウザでは、縦書きの表示など日本語を読みやすくレイアウトすることは困難だが、ホームページ上にはインデックスのみ表示し、本文はHTMLのテキ

ストをエキスパンドブック形式に変換する「NetViewer」と専用ブラウザ「BookBrowser」を使用して表示する形にすれば、読みやすい日本語文章が表示できる。また、ホームページにリンクできる「Open URL」の機能も搭載している。価格は45,000円。

問い合わせ (株)ボイジャー TEL03-5467-7070
電子メール info@voyager.co.jp
URL <http://www.atom.co.jp/VOYAGER/>



ホームページのデータもエキスパンドブック形式で読める

Service

プレイステーションの ソフトを共同開発する 「ネットやるうぜ」

ソニー・コンピュータ・エンターテインメントは、実験プロジェクトとして「ネットやるうぜ」と称し、一般ユーザーを対象にプレイステーション用個人向けソフトウェア開発ツール「スタータキット」を提供する。さらに、「ネットやるうぜ」の会員となった個人クリエイターの活動を支援することを目的に、インターネット上に情報交換専用のWWWサーバーやNetNewsサーバーを置いて、運用を開始する。スタータキットの価格は120,000円で、パソコンとつなぐことによってパソコンで開発したデータをプレイステーション上で試せるようになっている。会員の募集は5月11日から行う。

問い合わせ (株)ソニー・コンピュータ・エンターテインメントネットワーク企画室
TEL03-3475-1711
電子メール ny-info@scei.co.jp

Product シャープがカラー画面の新ザウルスを発売
電子メールの使用とWWWの閲覧が可能

シャープは、インターネットへのアクセス機能を持った携帯情報端末「液晶ペンコム・カラーザウルスMI-10」と同「MI-10DC」を6月25日から発売する。

新しいザウルスは65,536色表示、解像度320×240ドット、5型のTFTカラー液晶を使って画面表示能力を大幅にアップさせた。PCMCIAタイプ2の插槽を持ち、この插槽にシャープが推奨する市販のパソコン用高速モデムカードを入れるか、内蔵の2.4Kbpsのファックスモデムを使って、PPPでインターネットに接続する。インターネットには標準でプロバイダーの「InfoWeb」にオンラインサインアップできるようになっており、接続のための細かい設定はしないですむようになっている。設定を変えることにより他のプロバイダーに

も接続できる。

インターネットに接続して使える機能は、電子メールとWWWの閲覧。電子メールはMIMEに対応しており、画像や音声などのファイルもやりとりすることができる。WWWのブラウザはシャープが独自に開発したもので、HTML2.0にバックグラウンドGIFや表組み、センタリングなどの機能を追加している。

また、あらかじめ指定したサーバーから自動的に情報を集めてきていったん通信を切り、あとから情報を確認できるオートサーフィン(自動巡回)機能や、インターネットにつながなくても本体のメモリーに蓄積したWWWのデータを閲覧できるオフラインブラウジ

ング機能を搭載している。

MI-10DCには「デジタルカメラカードCE-AG02」が同梱されており、同カードを使うことにより、デジタルカメラとしても使うことができる。価格はMI-10が120,000円、MI-10DCが150,000円。

問い合わせ シャープ(株)コンシューマーセンター
TEL06-621-4649(西日本相談室)
TEL043-297-4649(東日本相談室)



アイコンをペンで押すだけでインターネットに接続できる

Product NECから新型のTA
DSU内蔵とカード型の
Atermシリーズ

NECはDSUを内蔵したISDN用ターミナルアダプター「AtermIT45DSU」と、PCカード型の「AtermIC20」を発売した。「AtermIT45DSU」はアナログ2ポートを装備。「AtermIC20」はPCMCIAタイプ2で、プラグアンドプレイに対応。ともに同期64Kbpsと非同期57.6Kbpsで接続できる。問い合わせ NECパーソナルコミュニケーションインフォメーションセンター
TEL0120-361138

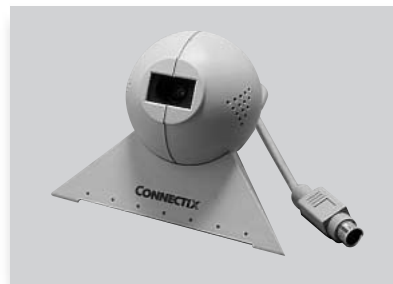


DSUを内蔵したAtermIT45DSU

Product カラーに対応した
マック用のキューカム
誠和システムズが発売

誠和システムズは、小型24ビット・カラーデジタルカメラ「Color QCAM for Macintosh 英語版」を発売した。Macintoshのシリアルポートに接続するだけで、動画と静止画をカラーで取り込める。ウィンドウサイズは640×480ピクセルまで。価格は34,800円。

問い合わせ (株)誠和システムズ商品情報
TEL03-5352-7818
URL <http://www.ijinet.or.jp/Seiwa/>



カラーのWindows版は6月下旬の発売予定

Product 富士フィルムから
手軽なデジタルカメラ
「DS-7」7月発売

富士フィルムは、高画質の一般用デジタルカメラ「DS-7」を7月に発売する。切手サイズで持ち運びに便利なメモリーカード「SSFDC」を世界で初めて搭載した製品で、小型で操作しやすいのが特徴。RS-232CやPCカードなどインターフェイスも豊富で、価格は70,000～80,000円の予定。

問い合わせ 富士フィルム(株)
TEL03-3406-2981



軽くて持ちやすいDS-7

Product 英文ホームページを和訳してくれる富士通「翻訳サーフィン」

富士通は、インターネット連携翻訳ソフト「翻訳サーフィン」を発売した。このソフトは、メインフレームでの機械翻訳システムとして1984年以来実績のある「ATLAS」をもとに、インターネット上で利用できるソフトとして開発したもの。英文ホームページをレイアウトをそのままにして日本語で読むことができるほか、同一画面上で英文と和文を交互に表示させ、情報を確認しながら読むこともできる。辞書にはインターネットでよく使われる用語を含めて13万6000語が収録され、より正確な翻訳ができる。Windows95上で動作するNetscape Navigatorと連携し、価格は12,800円。

問い合わせ 富士通(株)ソフトウェア販売推進部
TEL045-475-1956

Product NECの「meshPLUS」にホームページ作成用ほか3つの新製品が追加

NECは、インターネット初心者向けのソフトファミリー「meshPLUS」に3製品を新たに追加して発売した。

新製品は、Netscape Navigator 2.0Iに英日辞書引き機能を付加して英単語をその場で日本語に翻訳できるCD-ROMソフト「Netscape/ej CD」(7,000円)と、インターネット接続ソフトDynaSpan LITEにNetscape Navigatorと英日辞書引き機能をセットにしたインターネットスターキット「InternetGoGo! CD」(18,000円)ワープロソフトMS-WORDを利用してHTML文書を作成するためのソフト「Wordto Web Ver.2.0」(9,800円)の3点ある。

問い合わせ NEC EC推進本部
TEL03-3456-8343
電子メール meshplus@apinfo.mt.nec.co.jp

Product 米Autodesk社がCADデータを表示するプラグインを発表

CADソフトの米国Autodesk社は、インターネットからデザインデータを効率よくダウンロードできる2Dベクターファイルフォーマット「DWF」と、そのビューワーとしてWWWブラウザ用プラグイン「WHIP!」を発表した。

DWFは、CAD分野のデザイン情報の保存と表示を効率的に行うもので、インターネット上では圧縮して転送し、WHIP!により、解凍して表示する。このシステムにより複雑で詳細な画面も高速移動とズーム機能で効率的に表示でき、インターネット上での共同デザインも可能になる。WHIP!は同社のホームページからダウンロードできる。

問い合わせ オートデスク(株)カスタマーサポートセンター TEL03-3473-9694
URL <http://www.autodesk.com/>

Product ビー・ユー・ジーがISDN用ルーターROUTE101発売

ビー・ユー・ジーは、ISDN対応のマルチプロトコルルーター「ROUTE101」を5月31日から発売する。ターミナルアダプター機能を内蔵しており、最大128Kbpsで高速WANが構築できるもの。プロトコルはAppleTalk、TCP/IP、NetWare IPXに対応しており、PPPによりインターネットとも接続できる。価格は198,000円。

問い合わせ (株)ビー・ユー・ジー
営業本部東京営業部 TEL03-3486-6710



TA内蔵のROUTE101

Product 日本シスコシステムズからSOHO製品のパッケージ「CiscoPro」新発売

日本シスコシステムズは、中堅企業やモールオフィスやホームオフィス向けのネットワーク機器とサポートサービスをパッケージ化した「CiscoProシリーズ」を発売した。機器の販売だけでなく、LAN接続やWAN展開についてのサポートも提供、ユーザー数10人から100人程度の規模を対象としている。製品構成は、ルーターがテレコミューター向けのISDNリモートアクセスルーター「CPA751」(価格109,000円)、小規模オフィス向け「CPA1003」(194,000円)など。LANスイッチがスイッチドネットワーク移行用の「EtherSwitch10/100」(584,000円)など。

問い合わせ 日本シスコシステムズ(株)営業本部
TEL03-5211-2806
電子メール ciscopro@cisco.co.jp

Product ActiveXコントロール米NetManage社が無償配布開始

米国NetManage社とMicrosoft社が共同開発した「インターネットActiveXコントロール」が、両社のWWWサイトから無償で配布開始された。

ActiveXはActiveXコントロールツールだけでなく、Visual Basic、Bisual C++などMicrosoft社の一般的な開発ツールとしても使用でき、WinSock、SMTP/POP3、NNTP、FTP、HTML、HTTPの各コントロールがある。

無償配布と同時に、これを利用したアプリケーションのコンテストも実施しており、最優秀作品には1万ドルの賞金が贈られる。

問い合わせ ネットマネージジャパン(株)
セールス部 TEL03-3221-8400
URL <http://www.netmanage.com/>
URL <http://www.microsoft.com/icp/>

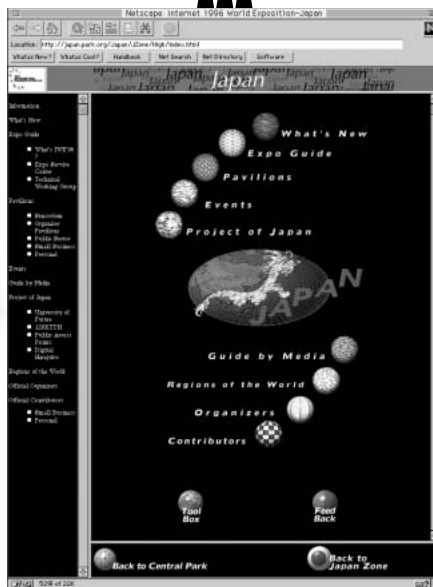
インターネットエキスポ'96 通信

No.7

開催期間：1996年1月1日～1996年12月31日

<http://park.org/>インターネット1996ワールドエキスポが4月16日、
グランドオープン！メイン会場の入り口 [URL http://park.org/](http://park.org/)日本ゾーンの入り口 [URL http://park.org/Japan/](http://park.org/Japan/)

村井氏とインターネットについて語り合う佐野元春氏



リニューアルしたエキスポのページ



会場には端末が置かれ、各パビリオンごとにデモが行われていた

大手町 KDD ホールでグランド
オープン記者発表会開催

今年1月1日から始まっているインターネット1996ワールドエキスポが4月16日、国内外のバックボーンをほぼ完成させてグランドオープンした。同日、記者発表会が大手町のKDDホールで開かれ、慶應義塾大学の村井純氏をはじめ、さまざまな関係者が集まり、エキスポの現状が報告された。

当日、会場となっていた東京のKDDホールと長野にあるパブリックアクセスポイント(PAP)のNTTマルチメディアパークNAGANOがエキスポの回線で接続され、

会場の大型モニターに長野からの動画がリアルタイムで再生されて、ビデオ会議システムのように会話をする光景も見られた。

このほか、この日からリニューアルした日本ゾーンやカール・マラムッド氏のインタビューを録画した映像もあわせて紹介された。

佐野元春氏、インターネットを語る

この日、自らホームページを持ち、インターネットにも造詣の深いミュージシャンの佐野元春氏が会場に現れ、インターネットと音楽について語った。佐野氏はエキ

スポが募集した128KTTTH専用線モニターになっており、すでに事務所にその回線が引かれているという。

インターネットについては「雑誌を作ったり詩を書いたり、インタラクティブに活動する目的に使っていきたい。インターネットでのコンサートは積極的には考えていない」と述べていた。

また、「インターネットの普及によってCDがなくなるのでは？」という質問に対しては、「音楽は音だけでなく、CDのパッケージやジャケットデザインなど、全体で楽しむものなので、自分は今までどおりに作品を発表していきたい」と語った。今後の同氏の活動に注目したい。

エキスポの中で自分のホームページが紹介できる！

だれでも参加無料の パーソナルパビリオン

エキスポで自分のホームページを紹介できることを知っているだろうか？ その名も「パーソナルパビリオン」。エキスポから個人のホームページにリンクが張れるしくみになっている。これに登録すれば、エキスポ来場者があなたのページを訪問してくれるかもしれない？

出展申し込みもいたって簡単。まず、エキスポ日本ゾーンの「パビリオン」から「個人パビリオン」に行き、そこから「申込方法」の「個人用の申込フォーム」のところをクリック。あとは指示に従って必要事項を記入すれば、登録完了。これで、

あなたもエキスポに参加できる！ 自分のホームページを持っている人はまずは登録してみよう。

申込受付は9月15日まで。ただし、あわせて申し込まずに「出展の条件」や「出展内容について」をよく読んでから申し込もう。

4月23日現在、登録されているのは73件。その中には、漫画家の内田春菊のページや髪に悩みに答えてくれる「電腦美容室」など、おもしろそうなホームページが盛りたくさん。新体道や空手など、国内外の武道のサイトへのリンクが充実している「日本の武道」というページもある。今後もしろいろなページが増えてくる予定なので、こまめにチェックしてみよう。



スモールパビリオン
http://pands.expo96.ad.jp/info_pers_j.html



INTERNET MARKET MALL

URL <http://map.toppan.co.jp/>

インターネットで日本地図が 検索できる

今までありそうでなかったのがインターネット版日本地図。この「INTERNET MARKET MALL」は、そんな願いをかなえてくれる画期的なページだ。

これは凸版印刷とNTTが共同で制作したインターネットで検索できる日本地図。国土地理院承認の正確な地図を使用して作られているので、かなり細かい場所まで調べることができる。地名や駅名検索のほか、店の名前でも調べられ、見たい場所が

地図上ですぐに表示できるので、とても便利だ。

また、個人の会社や店舗の場所と情報をWWWに掲載することも可能。マーケットモールのホームページから掲載申込みができるようになっている。登録すると地図上にその場所が表示され、そこをクリックして住所、電話番号、営業時間などが見られるしくみになっている。情報内容は依頼者自身が書き換えられるようになっているので、リアルタイムの情報更新が可能。

全国のパブリックアクセスポイントに地図掲載の申込書を置き、インターネット以外でも申込みができるようになるとのこと。

現在は東京23区のデータしかないが、年内にも全国対応する予定。ブックマークにぜひ入れておきたいページだ。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp